🕮 図書館だより Yぶらりー 🕮 横浜商業高等学校 2025年度 第6号

期末テストが終わり午前授業となった3月11日の放課後に、2年生の国際学科の教室をのぞいてみると、薄暗い中で何人もの生徒が震災の追悼式典を神妙な面持ちで観ていました。誰か大人に言われたわけではないその行動がとても崇高に感じられ、こんな生徒たちのいるY校を誇らしく思いました。
平穏な日々を過ごしていると震災への意識も薄れてしまいがちですが、『4コマですぐわかる みんなの防災ハンドブック』草野かおる著(369 ク) で、もしものときの対策を、いま一度確認してみませんか。　　司　書

🕮 2026年 本屋大賞 ノミネート作品 🕮

今年の本屋大賞のノミネート作品が発表されました。今年は暗い作品が多い年のようです。大賞の発表は4月9日。詳しいあらすじなどは各種サイトなどで手に入れられそうなので、こちらではY校生に向けて、司書が読んだ7冊を紹介します。

○『暁星』湊かなえ（913.6 ミ）

宗教がらみの問題から文部大臣を殺害するという冒頭に、首相暗殺事件をもとにしたフィクション的な小説かと読み始めましたが、宗教2世の問題を軸にした恋愛の物語で、読後には重い感慨を残しました。
宗教の事、特に新興宗教の話はふだんなかなか口にしづらいテーマですが、辻村深月の『琥珀の夏』や角田光代『八日目の蝉』、今村夏子『星の子』など、小説ではよく取り上げられています。この本でも宗教に関する問題やそこにかかわる人々の細かな心の機微などを感じ取ることができます。

○『イン・ザ・メガチャーチ』朝井リョウ（913.6 ア）

今年度のYぶらりー第4号でも紹介した、推し活がテーマの小説です。とはいえ、気軽な推し活の話ではなくて、やはりこちらも重い話です。朝井リョウの前作『正欲』は、清水ヶ丘公園などY校の近くが舞台となっていましたが、今作では大分県にある、Y校生の進学先として選ばれることの多い立命館アジア太平洋大学（APU）の学生が主人公の一人として登場します。

○『エピクロスの処方箋』夏川草介（913.6 ハ）

重い作品が多い中で、安心して読める温かいお話です。京都を舞台にした雄町哲郎医師が主人公の『スピノザの診察室』の続編ですが、前作を読んでいなくてもすーっと読むことができる、心に染み入る物語です。京都の美味しいお菓子がいくつも登場し、それを目当てに京都を巡りたくなります。

○『殺し屋の営業術』野宮有（913.6 ハ）

にぎやかな装丁は今回のノミネート作品の中で一番楽しそう、と読み始めましたが、こちらも重い！　「営業術」という言葉の通り、企業の営業担当の主人公がその「術」を駆使して殺し屋と渡り合う話で、Y校生にピッタリかと読み初めましたが、殺戮の描写などが苦手な高校生はご遠慮ください。

○『さよならジャバウォック』伊坂幸太郎（913.6 ハ）

タイトルにある「ジャバウォック」というのは、ルイス・キャロルの『鏡の国のアリス』に登場する架空の生物だそうですが、それを知らなかったので、ファンタジー要素が多い作品かと思いきや、殺人場面から始まる、やはり重さのあるミステリー小説でした。まさかのラストは……？

○『熟柿』佐藤正午（913.6 ハ）

重い小説ではあるのですが、さすが直木賞をとった作家の書く文章がとても美しいので、ふだん軽い作品を読んでいて物足りなさを感じていた高校生に、手に取ってもらいたい本です。

○『PRIZE―プライズ―』村山由佳（913.6 ハ）

どうしても直木賞が欲しい！と熱望する作家の、承認欲求がむき出しの小説です。出版業界の裏話などが赤裸々に描かれていて、編集の仕事に興味のある方には一読の価値があります。この話の中に出てくる主人公が書いた小説は、作家の村山由香が高校生の時に書いたものだそうです。そんなことも味わいながら読んでみてください。

★残り３冊は司書は未読なので、皆さんの感想をぜひ聞かせてください！

○『探偵小石は恋しない』森バジル（913.6 ハ）

○『失われた貌』櫻田智也（913.6 ハ）

○『ありか』瀬尾まいこ（913.6 ハ）



Ｙ校図書館キャラの森本うさ子です



🕮　今の気持ちが楽になるかもしれない本　🕮

春は新しいことが始まる期待とともに、未知のなにかが始まってしまう不安が湧いてくる季節でもあります。本があなたの役に立ちますように。

○『「いい人でいなきゃ」を卒業したら人生がラクになりました』そうはは。（726 ソ：マンガコーナー）

人にどう思われているかなんて気にしないで生きていけたらそんなに楽なことはないとわかっていても、ついくよくよ思い悩んで疲れてしまう……。人とのちょうど良い距離感を見つけられるようになった著者のマンガを見ていたら、自分なりの、これでいいかも、が見つかるかもしれません。

○『嫌われる勇気』岸見一郎・古賀史健（146 キ）

図書館に複数冊の所蔵がありますが、どれも読み込まれて角が丸くなっています。Y 校生も、みんな悩んでいます。あなただけじゃありません。

○『ふと感じる寂しさ、孤独感を癒す本』根本裕幸（146 ネ）

寂しさ、孤独感と向き合って、上手に付き合い、乗り越えていくための様々なプロセスを紹介してくれています。感情を認めて、具体的に何をしたらよいのかが書かれています。本当につらい時には無理かも、というような具体例もありますが、ふと感じる寂しさや孤独感には効き目がありそうです。

○『ブルーな気持ちの処方箋』グウェンドリン・スミス（493 ス）

副題に「悲しみ・無気力・失望を乗り越えるセラピー」とあります。この本は医学的な見地から、ブルーな気持ちになったときにどのような治療があるのか、薬を飲むべきかどうか、自然療法やスピリチュアルな領域での効果など、あらゆる方策が書かれています。読んだら少し視界が明るくなるかもしれません。

○『AURORA』谷角靖（748 タ）

冒頭に少し、そして巻末のオーロラの説明以外には文字がなく、ただひたすらにオーロラの美しい写真が続きます。眺めていると、不思議と心が晴れてくるような気がします。

🕮　今月のおすすめ本　🕮

○『絶景サウナ旅』川邉実穂（291 カ）

サウナ好きの商業科の S 先生は、一日にいくつものサウナをハシゴし、気持ちも体もスッキリ整えて爽やかな週末を過ごしていると聞きました。S 先生ほどのサウナーではなくても、日本中の魅力的なサウナが満載のこの本を見ているとサウナに行ってみたくなります。森の中のサウナ、滝のほとりのサウナ、日本海の波打ち際近くのサウナ、鍾乳洞の中のサウナ……。「天国って、きっとこんな場所」と書いてあるのが、あながち言い過ぎではなさそうな気持ちよさが伝わってきます。S 先生が一生に一度は行ってみたいと思っていた富山県の「The Hive」も載っています。S 先生曰く、サウナ好きに悪い人はいない！そうです。春休みには、絶景のサウナをめぐる旅をどうぞ！

3月24日(火) 13:30～16:30 に、横浜市役所 1 階アトリウムにて「横浜から世界に挑戦しよう！ 留学・海外派遣報告／グローバルキャリア講演会」が開かれます。
Y 校生からも国際学科の生徒によるケニヤでの活躍の発表があります。市民協働推進センター スペース AB のブースでは、ハギレプロジェクトの生徒たちがアフリカ布のハギレを使ってせっせと手作りした商品の販売が行われます。ぜひ足をお運びください。



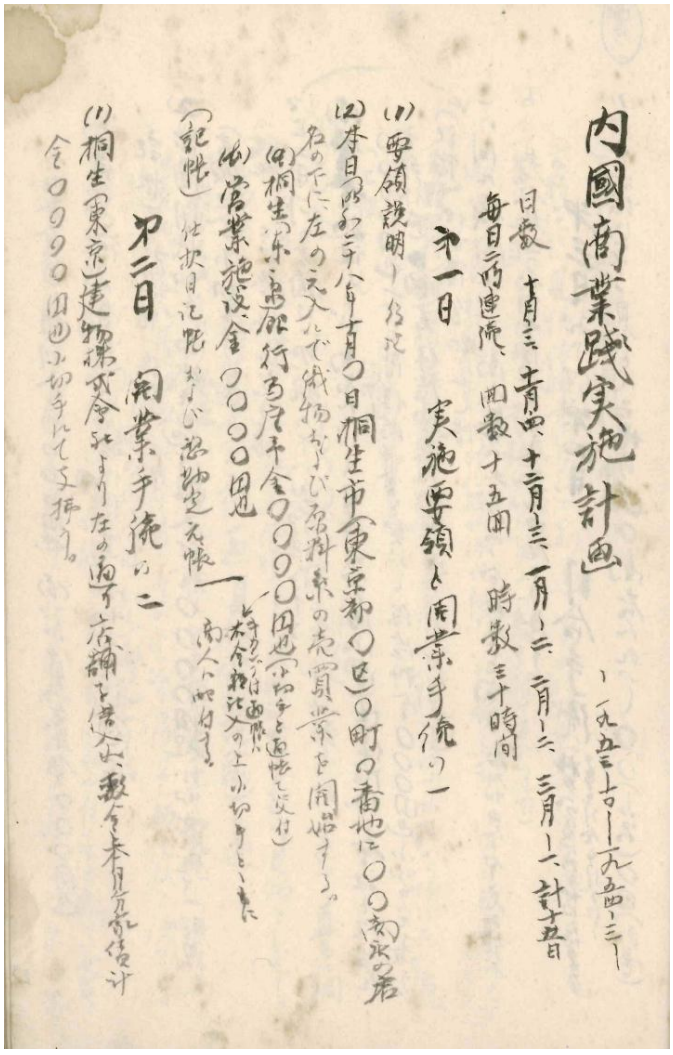
🔍「横浜から世界に挑戦！留学・海外派遣報告／グローバルキャリア講演会」を実施します　横浜市

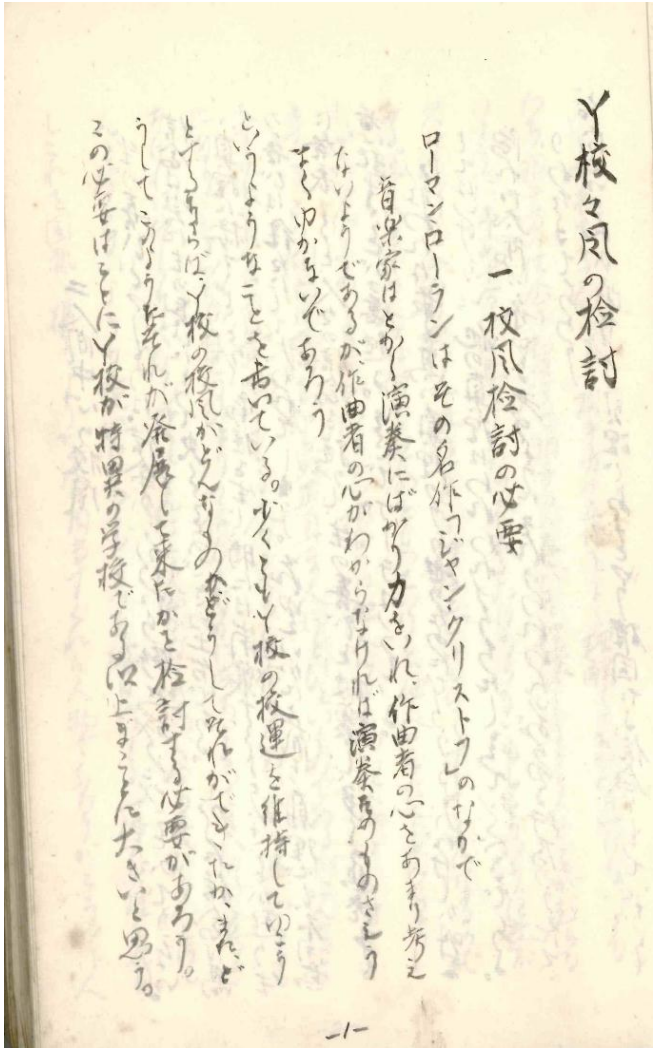
Y校アーカイブ　vol. 35　「 Y校々風の検討 ＝商業教育本質の研究」

昭和 28 年 3 月から昭和33年2月にかけて書かれた「Y校々風の検討」は、昭和11年頃まで Y校職員として勤務していた石原真之助氏が執筆したものです。B4 を半分に折った B5くらいの大きさの、108 枚の薄い紙が紐で綴じられています。

筆で書かれた文章は、美澤先生の教えの言葉や聖書の言葉、釈迦の話、ゲーテやロマン・ロラン、ルソー等の言葉が、抒情的ともいえる文体をもって、商業教育について、そしてY校のあるべき姿について、記されています。前半では、校風検討の必要、人間中心の校風、建校の精神、環境に順応する教育の進展などについて書かれ、美澤先生は「場所と時代にあった教育をせねばなりませんけに」と、全国の商業学校の先生が Y 校を訪れたときによく話されていたとありました。続く「商業実践教室の構成と実施の時期および時間」では、Y校における商業実践について、授業成功の要因、混乱の原因、指導者の数、特別教室や施設に関することなどいくつかの項目を立てて、商業の実践教育が何たるかを熱く語っています。銀行や運送店の方が指導者として実際に教育を行っている様子や、仕事を書類化して合理的にしていくことなど、具体的な記述が興味深い資料です。

「周年誌」や「清水が丘」などへ掲載するための原稿と思われますが、現在のところ活字となったものは見つけられません。


内國商業践実施計画


Y校々風の検討

一　校風検討の必要

ローマンローランはその名作「ジャン・クリストフ」のなかで